

認知症の人とどう向き合うか？

認知症の人の生活障害の理解とケアーBPSDの再考をふまえてー

(専門職向け講座)

日時

平成28年12月4日(日) 13:30~15:30

場所

千葉大学看護学部

第2講義室(亥鼻キャンパス内)
千葉市中央区亥鼻1-8-1

主催：千葉大学看護学部

時間	講義内容等	講師等
13:00~13:30	受付	
13:30~13:35	開講の挨拶	千葉大学大学院看護学研究科長 宮崎 美砂子
13:35~15:00	認知症の人とどう向き合うか？ 認知症の人の生活障害とケア ーBPSDの再考をふまえてー	千葉大学大学院看護学研究科 教授 諏訪 さゆり
15:00~15:30	質疑応答・まとめ	千葉大学大学院看護学研究科 広報渉外委員会 委員長 小宮山 政敏
15:30	閉講の挨拶	

《申込方法》

○Eメール

参加予定者全員の郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・性別・年齢・連絡先(日中連絡可能な連絡先)をご記入の上、下記メールアドレスまでお送りください。メールの件名(タイトル)は、「公開講座受講申込(専門)」としてください。

先着順に「受講内定メール」をお送りします。

【対象】 看護職、介護職、そのほか医療・介護従事者の方々

定員100名(定員を超えた場合、お断わりする場合があります。)

【受講料】 無料

【受付期間】 平成28年10月3日(月)~平成28年11月30日(水)

【申込先】 〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学看護学部学務係 公開講座担当
TEL 043-226-2452 FAX 043-226-2382
E-mail kango-gakumu@chiba-u.jp



CHIBA
UNIVERSITY

※お申し込みの際に記入して頂いた個人情報は、千葉大学看護学部公開講座業務以外には使用致しません。

認知症の人とどう向き合うか？

認知症の人の生活障害の理解とケア —BPSDの再考をふまえて—

地域創成看護学分野 訪問看護学 諏訪 さゆり

《講義概要》

認知症の原因疾患にはアルツハイマー病やレビー小体型認知症など、さまざまなものが挙げられ、具体的な障害として注意障害、記憶障害、見当識障害、失認、失行、失語、実行機能障害が出現することが知られています。これらの障害によって、認知症の人は食事や入浴、排泄、更衣、歯磨き、服薬などの生活行為を一人で遂行することが困難になります。生活行為の遂行困難を生活障害と言います。具体例として、食べ物へ注意を向け続けることが難しいので食事が途中で止まってしまう、更衣の途中で着ているのか脱いでいるのかわからなくなってしまう更衣を終えることができない、歯ブラシの扱い方がわからないので歯磨きを始めることができないなどを挙げるができます。

生活障害は認知症の行動障害・精神症状(BPSD)と誤解されることが多く、生活障害のケアの具体はまだ明らかされていません。私たちケアの専門職は、ケアを見守り、一部介助、全介助と表現することが多いのですが、一人ひとりの認知症の人の何をどのように見守るのか、一部介助とは何をどのように、あるいはどのようなタイミングで介助することなのか、認知症の人がどのような状態になったら一部介助から全介助へ移行するののかは、私たちの経験や施設の慣習によって判断されているのが現状です。

このような現状を克服する上で、認知症ケアを実践する専門職にとって基盤となるのがWHOの国際生活機能分類ICFの考え方です。本講座ではまず、BPSDの定義やICFの考え方を確認します。さらに、生活障害に対して根拠のあるケアをどのように実践していくことができるのかについて、認知症の人の日常生活を映し出した映像教材を通して考えていきます。日々の認知症ケア実践を見つめ直すことから、自律と自立を尊重する具体的なケアを見出していきます。

《交通アクセス》

■JR千葉駅から、バスのご利用案内

JR千葉駅東口の改札を出て直進し、駅舎を出るとバスターミナルがあります。7番乗り場から、京成バス「大学病院」行き、または「南矢作」行きに乗車し、「医学部入口」(5番目のバス停)で下車してください。千葉駅から所要約15分です。

医学部の正門を入りましたら、左へお進みください。
左側つきあたりが看護学部棟です。

第2講義室は、看護・医薬系総合教育研究棟(中棟)の2階です。

